新事業へのチャレンジ

2006年以降、NPG ネイチャー アジア・パシフィックでは科学技術の進展に合わせ、新しい出版事業に精力的に取り組んでいる。その中から主なものを紹介する。

2007年1月創刊、*Nature Photonics* は編集部を初めて東京に設置

オリバー・グレイドン (*Nature Photonics* 編集長)

Nature Photonics は、ネイチャー・パブリッシング・グループ (NPG) が発行する物理学分野の最新ジャーナルである。この月刊ジャーナルが創刊されたのは2007年1月で、好評を得た *Nature Materials*、*Nature Physics*、*Nature Nanotechnology* に続く順調なスタートを切った。

Nature Photonics の使命は単純明快で、オプトエレクトロニクス、レーザー科学、光学をはじめとするフォトニクス分野の最高水準の論文を掲載することである。このほかに、フォトニクス業界で進行している技術の実用化、応用、それにビジネスの展開に関する最新動向を紹介する有益で読みやすい記事も掲載している。

多彩な誌面構成をめざして、光の発生、操作および検出の全領域が網羅されるようにし、新規性、技術革新、および性能と能力

の飛躍的進歩を重視している。これまでに *Nature Photonics* では、フォトニック結晶、メタ材料、光バッファ、半導体レーザー、イメージング、それに光ファイバーをはじめとする各領域の論文を掲載した。

意外に思われるかもしれないが、編集拠点を日本にもつネイチャー系ジャーナルは *Nature Photonics* が初めてである。東京の市ヶ谷にあるオフィスには編集長の私のほか、編集者2名と製作スタッフが常駐しており、アジア・パシフィック地域全体の研究者と交流を行う絶好の拠点となっている。さらに誌面の国際性を確保するべく、サンフランシスコとロンドンの編集者が日本の編集チームを支援している。

Nature Photonics では、本誌のほかに、フォトニクス領域の有望な技術の進歩に的を絞った隔月刊の「Technology Focus 特別増刊号」

も発行している。年6回発行の Technology Focus が2007年に取り扱うトピックは、LED (1月)、通信 (3月)、ディスプレイ (5月)、半導体レーザー (7月)、バイオフォトニクス (9月)、イメージング (11月) である。この増刊号はウェブサイト www.nature.com/nphoton にて無料で閲覧することができる。 ■

2006年10月創刊、*Nature Nanotechnology* は編集者の1人を東京に配置

アイ・リン・チュン (*Nature Nanotechnology* アソシエイト・エディター)

「ナノテクノロジー」という用語が科学論文に用いられたのは、1974年の東京理科大学谷口紀男教授による論文が最初である。ただし、この用語が実際に使われるようになってきたのは1980年代後半であり、それ以降、使われる機会が増え続けている。Institute for Scientific Information (ISI) のデータによると、ナノ論文は今や、米国やヨーロッパを抜いて、東アジア (中国、香港、台湾、日本、韓国) 発のものが最も多い。国別では、中国が2001年に発表数で日本を追い抜き、韓国も着実に成長している。1999～2004年発表のナノ論文数で世界各国を順位づけると、日本が米国に次いで第2位、中国が第3位、韓国が第8位である。

研究開発への支出や投資も増大している。米国国立科学財団は、世界各国の政府によるナノテクノロジー研究開発への支出額について、1997年の4.32億ドル、2001年の15

億ドルに対し、2005年が約41億ドルと推計している。2004年、各国の企業によるナノテクノロジー投資は38億ドルであり、アジア企業は合計14億ドルを投資している。

このように、アジア・パシフィック地域の研究者や企業の影響力が増大するのに伴い、NPG は2006年10月、*Nature Nanotechnology* の創刊にあたり、編集者の1人を東京オフィスに配置することを決定した。ネイチャーが編集者をこの地域に置いたのはこれが初めてである。編集者が常時東京で活動することにより、*Nature Nanotechnology* は、研究室訪問や学会出席、*Nature Nanotechnology* 発行に関する集中セミナーを通じ、この地域のナノ学界と良好な関係を構築することが可能となる。

Nature Nanotechnology は、生物学、物理学、化学の基礎研究から新素材や機能的装置、技術まで、幅広いトピックを対象としている。原

著論文のほかに、総説論文、ニュース概説、他誌が掲載した重要論文の研究ハイライト、解説、書評、通信、それに幅広く捉えたナノテクノロジーの全体像 (ナノテクノロジーの資金、商品化、社会的影響度) の分析も掲載される。*Nature Nanotechnology* はこれによってナノサイエンス、ナノテクノロジーの分野で世界的コミュニティの声となることをめざしている。 ■

2006 年、アジア・パシフィック地域のすぐれた学術誌と提携・発行

ニック・キャンベル（アソシエイト・パブリッシャー、エグゼクティブ・エディター）

2006年1月、NPGは、アジア・パシフィック地域の科学・医学分野の一流学会や団体と提携してすぐれたジャーナルを発行するという新たな戦略プログラムをスタートさせた。このプログラムでは、優良性と革新性、先見性という核心的価値をNPGと共有する提携先とジャーナルに的を絞り、メルボルンに拠点を置く私と東京の浅見りの子が、アントワーン・ブーケの統率の下で進めている。

このプログラムで発行されることになった最初のジャーナルは、中国科学院上海生命科学研究院機関誌である *Cell Research* である。*Cell Research* は1990年の創刊以来、中国随一の生命科学ジャーナルとして、すでにめざましい発展と拡大を遂げてきた。同誌はISIの細胞生物学分野で中国のナンバーワンであり、インパクトファクター（現在2.161）は上昇を続けている。これにより、*Nature*

Cell Biology、*Nature Reviews Molecular Cell Biology*、*Cell Death & Differentiation* を擁するNPGのすぐれた分子細胞生物学ジャーナルのレパートリーに、新たな優良誌が加わったことになる。

上海生命科学研究院側も、同誌がいかにNPGにふさわしいものであるかを認識していた。提携契約が調印されたとき、院長の裴鋼教授は「今日は中国の科学にとってすばらしい日だ。世界最高の科学誌発行元であるNPGと提携することは、中国の科学が成熟し、それにふさわしい認識が得られるようになってきたことをはっきり示している」と語った。

2番目のジャーナルとなったのは、すぐれた国際的研究の発表に関して輝かしい歴史を誇っているオーストラレーシア免疫学会機関誌の *Immunology and Cell Biology*（ICB）である。ICBは、免疫学と細胞生物学の幅広い領

域に着目し、アジア・パシフィック地域の主要な基礎生物学研究ジャーナルの1つという地位を獲得していることから、同誌はNPGのポートフォリオに加えるジャーナルとして理想的なものであった。

これ以外にも最終段階を迎えている提携契約交渉があり、幸先のよいスタートを切ったこの新プログラムは、今後も大きく発展することが期待されている。

2006 年、医療関係者と製薬企業を橋渡しする新部門を設立

大西進（MMC コンサルタント・ディレクター）

2006年8月、マクミラン出版社^{*1}の新しい事業としてマクミラン・メディカル・コミュニケーションズ（MMC）が立ち上がった。我々のめざすメディカル・コミュニケーションとは、情報を求める医療関係者と情報を提供する製薬企業のコミュニケーション活動を全面的にサポートするものである。MMCでは、NPGのもつ豊富な医学・医療関連コンテンツ^{*2}を独占的に利用できる利点を生かし、質の高い学術情報をわかりやすいプロモーション資料の作成などを通して提供していく。

欧米に遅れているといわれて久しい国内治療整備が、2007年以降、厚生労働省の「新たな治療活性化5か年計画」としてスタートする。これにより今後、有用な新薬の増加が期待されている。MMCでは、市場へのスムーズな新薬の導入をサポートするための基礎的な体制をこの8か月間の活動で築き上げ、さ

らなる拡充をめざしている。

我々の掲げる理念は、「常に有用な情報を医療関係者に提供する」「ほかにはない独自性のある医学情報提供を追求する」「信頼と尊敬を与えるビジネス関係の構築に努力する」「長期安定成長をめざせるチームづくりを意識する」の4つ。これらの下で、よりよいメディカル・コミュニケーション事業のビジネス作りに邁進したいと考えている。

*1 マクミラン 出版社（Macmillan Publishers Ltd.）は1843年に英国で設立され、現在では世界70か国で事業を展開する総合出版社である。傘下にはNPGのほか、米国の科学誌 *Scientific American* もグループの雑誌である。

*2 コンテンツには、*Nature* のほか *Nature Medicine* などリサーチ誌、*Nature Reviews Cancer*、*Nature Reviews Neuroscience* などのレビュー誌、領域

別に臨床の最新研究の概要をまとめた *Nature Clinical Practice* シリーズ（8誌）、国際腎臓病学会機関誌 *Kidney International* などがある。

MACMILLAN
MEDICAL COMMUNICATIONS